

○岩手県議会における質問について

令和6年2月議会において、岩崎友一議員から複数担任制の取組に関して質問があり、下記のとおり答弁したものの。

【岩崎友一議員からの質問（要約）】

- ・ 今回、この新たに始まる令和6年度からの働き方改革プランの中で、県教委として複数担任制の導入の可能性について、触れているのか。導入の可能性についてどう考えているのか。
- ・ 複数担任制の導入について、学校任せではなくて、市町村教委、県教委も一定の方向性や考え方を持つ必要があると思う。全部学校任せではなく、その見解や方向性も市町村教委、県教委も持つべきだと思うが如何か。
- ・ 各地の報告書等で、実際導入してみてどうであったかという点を見ると、県教委においても研究ではなく、前向きに検討していくくらいの取り組みに当たるのではないかと考えているので、様々な可能性を遮ることなく、良い方向に進むためには、あらゆる可能性を含めて、前向きにご検討いただきたいと思うので、複数担任制、チーム担任制の導入について、県教委としてどのように進めていくのか、教育長の方針を伺いたい。

【答弁（要約）】

（教職員課小中学校人事課長）

- ・ 学級の担任をどう持たせるかは校内で決めることであり、メリット・デメリットを検証して、それが児童のためになるか、そして先生方のためになるかということで、なるという判断があれば、そのような体制をとるということも、今後はあると思います。

（教職員課総括課長）

- ・ プラン見直しにあたっては、小中高校の各校長先生、職員組合、PTAの方々と、プランの見直しの会議を開いており、今後も毎年見直しを行っていくことから、そういった中で議論をしながら、その導入の可能性について検討させていただきたい。

（教育長）

- ・ 今後のあり方として、このプランを議論した方々の会議がありますので、点検をしていく中で、そういった取組みの導入について議論していくということで対応していきます。

○複数担任制導入によって考えられるメリット・デメリット（想定）

<p>メリット</p>	<p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の諸問題を一人で抱え込まない体制づくりができること。 ・多様な価値観での指導体制づくりができること。 ・保護者が気軽に相談できる体制づくりができること。 <p>(児童生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教員の話に耳を傾けられること。 ・相談しやすい教員が増える可能性があること。
<p>デメリット</p>	<p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任教員同士の意思疎通や仕事の連携が難しく、連携が上手にいかないときには、機能しないこと。 ・情報共有の手間が増えること。 ・小中の教員不足の状況で、複数担任を配置することが難しいこと。 <p>(児童生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇先生のほうが好き」という人気の偏りが生じること。 ・同じ教員と生活する方が安心できる子どもがいること。

⇒ 県教育委員会としては、上記のとおり複数担任制導入にはメリットだけではなくデメリットもあることから、学校の実情や児童・生徒の状況等を踏まえながら、学校において導入の必要性を判断していくものと考えています。